



# OKAYA

岡谷ロータリークラブ

- 会長／竹村 一幸
- 副会長／小野 仁 中畑 隆一
- 幹事／小口 泰史
- 会報・雑誌・広報委員長／坂井 忠彦

■ 例会 毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

■ 事務所 岡谷市中央町 1-4-12 ホテル岡谷 3F  
Tel/0266-22-6939 Fax/0266-23-6939

## 第 2305 回例会 2006 年（平成 18 年）8 月 29 日（火）

司 会：山岡正邦  
点 鐘：竹村一幸

斉 唱：手に手つないで  
ラッキーNo.：1 竹村一幸

### 会長挨拶

先週のエコーRC との合同例会はスコールのような雨の中でバーベキュー屋外例会でしたが、両クラブの懇親を深め記憶に残る例会になったと思われます。太田会員さんが貧血で倒れるハプニングが起きましたが、畑先生、塚田先生、藤森先生方の適切な処置により大事に至らなく幸いでした。会員の内に専門の先生方が居られることは大変ありがたい事だと思います。お世話になりました。

熱闘甲子園では球史に名を残す名勝負で私達に暑い夏をより熱くさせてくれました。37年ぶりの決勝戦再試合で早稲田実業の斉藤君と駒大苫小牧の田中君の投手戦は見事で感動を与えてくれました。近年忘れ掛けていた「文武両道」が話題にもなりました。日本の未来もまだまだ捨てたものではありません。多くの青少年にこのような精神力が浸透して欲しいものです。

### 会長報告

- ・ 8月25日に第2600地区ガバナー横田盛廣さんが急遽来岡し、岡谷市に災害義援金50万円を贈られました。引率接待には尾関ガバナー補佐、小口俊光補佐幹事、エコーRCと岡谷RCの会長が努めました。

#### 太田博久 会員

合同例会の際には大変にご迷惑とご心配をお掛けして申し訳ございませんでした。やっぱり厄年ってあるのかなと思いましたが。検査の結果も異常もなく復帰できましたのでありがとうございました。



横田ガバナー  
支援金を贈る

### 委員会報告

**会員増強・家族委員会** 8/8に塩尻で開催された第2600地区会員増強セミナーに出席して来ましたのでその時の要旨をお話させていただきます。1つにRC全体の大きな問題として会員の減少があります。1997年には日本のロータリアンは約13万人でしたが、現在は11万1千人でこのままでは11万人を割るのではないかと危惧されています。会員増強を今後のRCの表題としていきたいと話されました。前にもお願いを致しましたが、皆様の周りに居られる有能な方のご推薦を是非とも、よろしくお願ひします。



## 卓 話

### 「岡谷市の水資源と水保全について」

岡谷市建設水道部水道課

課長 今福 国章 様

皆様方には、平素岡谷市政に対しまして、深いご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。また、過日7月19日に発生した豪雨災害に対しましてもあらゆる面からご協力いただき重ねて御礼を申し上げるところでございます。7月15日から19日にかけて降り続いた雨は、観測史上最大の総雨量400mmに達し、市民の方8名の尊い命が奪われるとともに家屋の損傷等、生命、財産に甚大な被害を及ぼすなど、かつて経験のない災害でありました。お亡くなりになられた方々のご冥福を謹んでお祈り申し上げますとともに、被災されました皆様には、心からお見舞いを申し上げる次第でございます。私ども行政といたしましては、新たに「豪雨災害復興対策室」を組織し復興支援と整備に向けた体制を整えたところであり、庁内全体での強力体制をとりながら職員一丸となって取り組んでまいりますので、より一層のご理解とご協力をお願い致しますところでございます。それでは、本日の本題であります「岡谷市の水資源と水質保全」について、水道課の立場からお話をさせていただきます。

まず、現在におけます岡谷市の水道施設であります、21水源、17配水池で構成されております。各水源の取水計画は、表流水1水源、地下水16水源、湧水4水源であり計画取水量日量35,000 m<sup>3</sup>で、表流水約16.6%、地下水約76.5%、湧水約6.9%の割合となっており、岡谷市の水道水は地下水に依存している状況にあります。なお現状では一部の水源におきまして若干の井戸の枯渇傾向も見られ日量32,250 m<sup>3</sup>程度となっております。現在の岡谷市の水需要の状況でございますが、近年の社会情勢を背景に、人口の減少、市民の方々の節水意識等の要因から平成16年度の決算からは、日最大使用量26,800 m<sup>3</sup>となっており平成13年度に比べても、一約2,700 m<sup>3</sup>であり右肩下がりの傾向となっております。計画取水量と日最大の使用量の数値だけを比較をしますと、約5~6,000 m<sup>3</sup>の余裕があることとなりますが、各水源別に見ますと100%に近い稼働率の水源もあり、各水源に必ずしも余裕がある状況ではないことをつけ加えておきます。

それでは、岡谷市の水道事業の経緯について若干ふれさせていただきます。岡谷市の水道は、昭和27年10月に岡谷市営水道として発足し、昭和28年に今井地域に南唐沢、一の瀬水源の建設が行われました。その後、合併等により湊水道、岡谷水道、長地水道、小井川水道がそれぞれ移管、統合され、また昭和36年には、弥生町水源が完成いたしました。昭和37年には、給水区域拡大のため第1期拡張事業に着手し、片間町水源を新設、小井川水源におきましては薬品沈殿施設を構築するなど新たに岡谷市上水道事業の整備を図って参りました。翌38年から昭和49年には、川岸地区の未給水区域の解消を図るため第2期拡張事業により橋原水源の建設に着手するほか、川岸水道を統合いたしました。また、若宮水源等の建設、西堀水源においては浅井戸から深井戸に変更するなど安定給水の確立を図って参りました。昭和44年から昭和49年には、経済発展に伴い地域の開発等が盛んに行われ、その水需要に対応、また、一方では弥生町水源においてシアン、クロムによる地下水汚染から廃止、また、近距離に位置する若宮水源についても地下水汚染の影響が見られ、同水源の拡大計画を中止したことから、第3期拡張事業を立ち上げ東堀水源、

小井川第二水源の新設、花岡水源、川岸水源においては浅井戸を深井戸に変更し、また、塩嶺内山地域の未給水、給水不良の解消のため個人井戸に余裕があることから塩嶺第一水源として取水を開始しております。昭和49年から昭和59年には、人口の増大、水道の安定給水等から第4期拡張事業の展開を図り、宗平寺水源、御用地水源、河原口水源の新設、小井川水源におきましては濁水処理施設の建設を行っております。また、この拡張事業期間中におきましては諏塩トンネル事業により滝ノ沢水源が減水したことに伴い塩嶺第2水源新設、中央道長野線基礎工事に影響し川岸第1水源の汚濁、減水から関沢水源の新設等の代替水源の確保を図っております。そのほか、西堀水源、若宮水源等におきましては、有機化学物質により地下水汚染、中央道岡谷トンネル建設に伴う枯渇から滝ノ沢水源をそれぞれ廃止しております。昭和59年からは第5期拡張事業に着手し、地下水汚染、枯渇井戸等の対策を含め、方久保、常現寺、内山水源を新設するとともに三沢配水池の築造、また、樋沢水源を新設し三沢、岡谷インター付近の高台等における水圧低下の解消を図っております。そのほかには、沢、塩坪、中村の各簡易水道を統合いたしております。一方では、橋原水源、夏明水源では地下水の枯渇、関沢水源においては、鉄、マンガンの検出からそれぞれ廃止いたしました。また、平成9年には東堀、川岸第2、宗平寺、片間町、河原口の5水源におきまして一般有機化学物質（トリクロロエチレン）が検出されたことから、高度浄化処理施設を設置いたしております。この5水源の水質検査についてであります。原水の水質検査においてトリクロロエチレンが水質基準をこえているのは、宗平寺水源のみであり、浄化処理後におきましては全く問題のない物となっているのが現状であります。以上のような経緯を経て、先ほど申しあげました通り現在21水源、17配水池により水道事業が展開されております。岡谷市は恵まれた自然と豊富な水を利用して発展した生糸の都「シルク岡谷」から戦後、時計、カメラを中心とした精密工業都市へと急激に変貌をとげて参ったわけですが、トリクロロエチレンは主にクリーニング、精密部品の洗浄等に使用されており、かつて法規制のない時代には、地中に投棄されてきたとも聞いております。こと水道水につきましては、先に申しあげたとおり地下水に依存度が高いことから、生活環境部で実施しております市内199箇所の民間井戸調査では、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン等の検出された井戸が138箇所あり、そのうち環境基準超過が23箇所あると聞いており、これらの推移を見守りながらお一層水質検査及び監視体制の強化を図って参りたいと考えているところであります。水道水は日常生活に欠かすことのできないものであり、清水で安心して飲める水を後世に残していくことが私たちの使命であると考えているところであります。先に申しあげましたが5水源について高度処理をしていることから、「下諏訪ダム」に元からきれいな水の確保を求めてきた経過があります。しかしながら、平成13年現長野県知事による「脱ダム宣言」により、ダム建設は中止されました。岡谷市といたしましては、ダムによらない取水の代替案を提示することを条件にしておりますが、県からはいまだに具体的な代替案が示されない状況であります。このことから、県と交渉しながら県費補助事業によりH16年度に塩嶺、三沢の高台を中心に電気探査により水源確保の可能性について調査いたしました。調査結果といたしましては、樋沢地区に日量1,500トン程度が見込まれましたが、現有の水源と近接しており相互が干渉する可能性もあり、詳細な調査が必要であります。また、新聞等

によりすでにご承知かと存じますが、H18.19年度にわたり山梨大学との包括協定に基づき、水資源有効活用の調査研究を実施いたしております。1. 東横川からの取水の可能性と下流域の治水・環境上の影響。2. 地下水、湖水利用での水量、水質の実態や将来性、新たな水資源確保。3. 流域風土を考慮した総合的な水管理に関する調査。をテーマにしており、具体的には、「表流水班」では東俣川、砥川及び横河川の水循環の量的把握、取水の可能性、湖水の利用の可能性「地下水班」は、地下水の流動システムや水質の現状把握、取水方式、影響比較等の調査研究「社会環境調査班」は、維持用水、慣行水理の期間的転換の可能性、広域的水資源融通の可能性等のフレームで調査研究が行われ、総合的にまとめていくものであります。この研究の中でも、地下水の動向がはっきりしてくるものと期待をしているところであり、また、今後の水道事業計画、しいて言えばダム代替案の一助になればと考えております。終わりにあたりまして、私ども水道課といたしましては将来の水道事業について、地域水道ビジョンの一面として現状と課題の抽出を行い、将来の目標の設定、送配水施設計画、維持管理計画を立て、水道財政面から見た実効可能な計画案の策定等を行い、効率の良い事業運営を行うべく水道事業基本計画を作成中であり、また、水質監視強化のため塩素補正装置の設置、油流入監視装置の設置等の事業にも計画的に取り組んでおりますが、皆様方には、今後とも一層のご理解とご支援をお願い致します。

## ニコニコボックス

◎8/21

山岸邦太郎・林裕彦・林靖高・塚田昌滋・井上保子・宮沢由己・牛山幸一・白鳥修次・矢島實 合同例会、マリオさんにお世話になります。

今井紅・山崎典夫・藤森睦美・河西洋・平沢清文・太田博久 暑さが続きます。

◎8/29

河西洋・尾関秀雄・山岡晴男・矢崎宏明・浜俊弘 今福様、本日は卓話よろしくお願ひ致します。

竹村一幸 先日の夜間例会はお疲れ様でした。エコーさん担当で大勢の皆さんと懇親を深めることができました。

太田博久 先日のエコーさんとの合同例会ではご迷惑とご心配をお掛け致しました。検査結果も問題なく無事に復帰致しました。竹村会長をはじめ皆様に感謝申し上げます。お陰さまでした。ありがとうございました。

北澤弘・大橋正明・藤森睦美・塚田昌滋・佐藤有司・林靖高・小松正二・高木昭好  
吉江信介・矢島進・井上保子・矢島實 まだ、暑い日が続いています。皆様お身体をご自愛下さい

小口俊光・山崎典夫・小口雅弘・濱透

## 出席報告

8/21 会員数50名、出席者名38名、出席率76.00%、前々回訂正100.00%

8/29 会員数50名、出席者名36名、出席率70.00%、前々回訂正90.00%

2006-2007年度 RI テーマ  
率先しよう

LEAD THE WAY

